

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

目次

P1 : 一般項目（全ての点検整備に適用）

《モデル別 点検時の安全対策》

P2 ~ 3 : グラビティ式ダビット

P4 ~ 5 : グラビティ式救命艇

P6 : フリーフォール式救命艇




P7 : 救助艇

2016年3月作成

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ



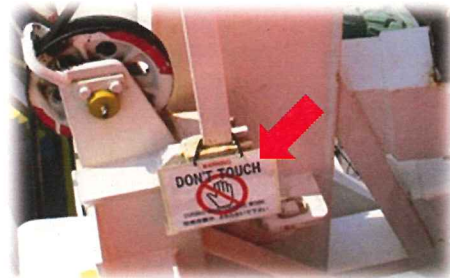
《一般項目》

番号	作業項目	要点	備考	確認
1	作業前ミーティング 	1) 造船所、本船乗組員、整備作業者間で作業内容の確認を行う。 2) ダビット及び救命艇の整備作業者が異なる場合、作業手順、安全確保手順について確認を行う。 3) 整備技術資格の確認を行う。(資格者1名以上必要) 4) 作業開始、終了時の声掛け確認の徹底。	・本船乗組員から、前回の点検・整備内容を確認、ダビット及び救命艇の不具合個所の聞き取りを行い、整備計画を立てる ・ダビット側の点検整備と救命艇側の点検整備を 同時に行わないこと を確認すること。	□
2	安全具の準備、装着状態を確認 	1) ヘルメット、安全带(命綱)、安全靴、脚絆、手袋、防護メガネ、等が準備、装着されていること。 2) 作業工具、器具の確認。		□
3	本船の周囲、ダビット甲板、救命艇の周辺の安全確認及び作業の安全確認 	1) 作業場所周辺の不要物の撤去。 2) 電源の閉断。(感電防止/誤作動防止対策) 起動器盤面に「作業中につき電源 ON 禁止」又は「DON'T TOUCH」の注意喚起カード設置。		□

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ


《グラビティ式ダビット》

4	救命艇内に入らないよう、立ち入り禁止の表示		<ol style="list-style-type: none"> 1) トラロープ、注意テープ等により作業区域を仕切り不用意に救命艇内に入れないようにする。 2) 甲板上、ステージ上からの転落防止の措置を行う。 	□	
5	ダビットアームの二次的固定の実施		<ol style="list-style-type: none"> 1) 万一誤ってダビットアームストッパーを開放した場合でもダビットアームが振り出さないよう、繊維索、鋼索、またはベルト(荷締機)等により固定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボートウインチを開放点検する際は必ず施工する。 ・ ボートウインチの点検整備が終了し、ボートフォールに張力が掛った状態になるまでは取り外してはならない。 	□
6	ダビットアームストッパーの確認		<ol style="list-style-type: none"> 1) ダビットアームストッパーが正常にセットされていることを確認。 2) ロック装置のクリアランスが規定内であること。 3) 腐食や変形が無いこと。 4) ダビットアームストッパーに「DON'T TOUCH」の注意喚起カードを取付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腐食により点検整備の安全が確保できない場合、補修を行う。直ちに補修出来ない場合は、作業の続行の可否を判断する。 ・ 造船所作業員、本船乗組員、整備作業員自身が誤ってダビットアームストッパーに触れないよう注意喚起する。 	□

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ

《グラビティ式ダビット》

7	スリングブロックの確認 	1) スリングブロック上部の「コマ」付近の確認。 2) ボート、又は スリングブロックとダビットを チェンブロック等で支えてから整備を行う事。	・EH-7/EH-8/EHR-3 型ダビット (1 本吊りダビット) のみ対応の事。	□
---	--	---	---	---

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ



《グラビティ式救命艇》

8	救命艇の点検整備は原則として、ダビットから取り外し、地上で行う。	1) 安定したボート架台を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・整備を地上で行う場合、番号9～12の対応は不要。 ・ダビットに格納した状態で整備を行う場合には項目9～12を対応のこと。 	<input type="checkbox"/>
9	ダビットに近づかないよう、立ち入り禁止の表示 	1) トラロープ、注意テープ等により作業区域を仕切り不用意に作業域内に入れないようにする。 2) 甲板上、ステージ上からの転落防止の措置を行う。		<input type="checkbox"/>
10	ダビットアームの二次的固定の実施 	1) 万一誤ってダビットアームストッパーを開放した場合でもダビットアームが振り出さないよう、繊維索、鋼索、またはベルト(荷締機)等により固定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・救命艇を格納状態で点検する際は必ず施工する。 	<input type="checkbox"/>

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ


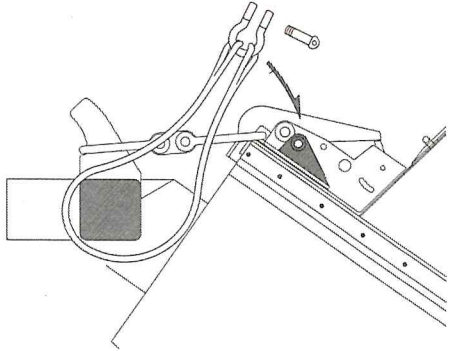
《グラビティ式救命艇》

<p>11</p>	<p>救命艇の落下防止措置(格納状態)</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1)ダビット側の点検整備と救命艇側の点検整備を同時に行わないこと。 2)整備技術者以外は、救命艇内に入らないこと。 3)離脱フックメンテナンス装置を、点検作業開始前に取り付けて、ダビット頭部の専用アイと救命艇側のアイを連結すること。 	<p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダビット頭部にメンテナンスアイを装備していない場合には、救命艇を海面上又は地上に降ろして点検整備を行うこと。 ・救命艇を海面上又は地上に降ろすことが出来ない場合は、適切な使用荷重を持つチェンブロックを使用し、ダビット頭部と救命艇を連結した上で点検整備を行うこと。 ・救命艇側にアイが無い場合には救命艇を海面に降ろすしか方法が無い。 	<p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/></p>
<p>12</p>	<p>救命艇の落下防止措置(格納・振出・降下時)</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1)ダビットを振り出し、救命艇を降下させる前に、ダビット側サスペンションリンクと離脱フックのアイを FPD(落下防止装置)で連結する。 2)点検整備後の振出、降下確認は救命艇内に乗員を乗せないで無人で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規の FPD 装置が無い場合、適切な切断荷重を持つアイ加工したワイヤロープ及びシャックルで連結する。 	<p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/></p>

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ



《フリーフォール式救命艇》

13	<p>フリーフォール艇の二次的固定の実施</p>  	<p>1) リーリースフック開放試験の際には、ボートフォールワイヤーに加え、ボートのアイとダビットを接続し固定する。(2箇所)</p> <p>2) 5年次の荷重試験は、ドック内で行わない事。</p>	<input type="checkbox"/>
----	---	---	--------------------------

ダビット及び救命艇 点検整備に於ける安全対策

船名： _____ 点検日： _____ 点検場所： _____ 担当者： _____ 株式会社マンセイ

《救助艇》

<p>14</p>	<p>転落防止対策</p> 	<p>1)安全帯をダビットから取る事。</p>	<p>・救助艇からは安全帯を取らない事。</p>	<p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></p>
<p>15</p>	<p>救助艇の保持</p> 	<p>1)救助艇内の点検の際は、ダビットで救助艇を吊る事。 2)救助艇の架台の中には、自己保持しない物が有る。事前に確認し、艇が転倒しないよう架台の固定を行う事。</p>	<p>・転倒防止のため、架台の下に支柱 又は ストッパーを入れる方法も有る。</p>	<p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></p>